ミニシンポジウム

魚類のゲノム解析とその必要性^{*1}

青木 宙^{*2} (東水大), 渡邊精一^{*3} (東水大),
隆島史夫^{*4} (東水大), 谷口順彦^{*5} (高知大農)

はじめに

染色体はあらゆる遺伝情報の貯蔵庫であり、各々の決まった遺伝子や DNA の機能単位が整然と配列されている。生殖、発生、分化、免疫等の生命現象は数多くの遺伝子の機能に依存し営まれている。遺伝情報を知るためには、ゲノム上にある遺伝子の構造およびタンパク質をコードしている領域の構造を明らかにする必要がある。

現在、微生物からヒトまでさまざまな生物のゲノム解析プロジェクトが行われており多くの情報が蓄積しつつある。しかし、魚類においては個々の遺伝子構造の解析が始められたばかりで、魚類のゲノム構造の解析は必要不可欠な重要な研究課題である。そこで、今後の魚類ゲノム解析を展望する目的で本ミニシンポジウムを企画した。

魚類のゲノム解析とその必要性

企画責任者 青木 宙 (東水大), 渡邊精一 (東水大),

隆島史夫 (東水大), 谷口順彦 (高知大農)

開会の挨拶

隆島史夫 (東水大)

座長 谷口順彦 (高知大農)

1. ヒトゲノム解析の現状

服部正平 (東大医科研)

2. イネゲノム解析の現状

長村吉晃 (農業生物資源研)

座長 渡邊精一 (東水大)

3. 魚類の染色体マッピング

岡本信明 (東水大)

4. 魚類のゲノム操作と G-C 間の距離

谷口順彦 (高知大農)

座長 岡本信明 (東水大)

5. 魚類の遺伝子構造について

廣野育生 (東水大)

6. 魚類の繰り返し配列構造

岡田典弘 (東工大生命理工)

総合討論

座長 青木 宙 (東水大)

^{*1} Analysis of the Fish Genome and Its Necessity.

^{*2} Takashi Aoki (Tokyo University of Fisheries, Konan, Minato, Tokyo 108, Japan).

^{*3} Seiichi Watanabe (Tokyo University of Fisheries, Konan, Minato, Tokyo 108, Japan).

^{*4} Fumio Takashima (Tokyo University of Fisheries, Konan, Minato, Tokyo 108, Japan).

^{*5} Nobuhiko Taniguchi (Faculty of Agriculture, Kochi University, Nankoku, Kochi 783, Japan).